

ブリティッシュ・エイジアン音楽のジャンル性をめぐる一考察

——南アジア系メディアの音楽チャートに着目して——

東京大学 栗田知宏

本報告は、「ブリティッシュ・エイジアン音楽」（以下「エイジアン音楽」）と呼ばれる在英南アジア系ポピュラー音楽のジャンルの境界がどのように形作られ維持されているかを、南アジア系メディア（特にラジオ局）の音楽チャートに着目しながら、業界関係者へのインタビュー調査などをもとに考察するものである。

ホスト社会で生まれ育った移民二世以降の世代にとって、「伝統」を分かりやすい形で織り込んだポピュラー音楽は、「祖国」との繋がりやルーツといった感覚を確認する上で大きな役割を担う文化といえる。そこで重要となるのが、エスニシティと結びついた音楽のジャンル性である。ジャンルとしての「エイジアン音楽」という包括的な枠組みは、音楽産業がある特定のエスニックな共同体にアピールする音楽を生産し流通させる上で、オーディエンスに南アジア的なサウンドのイメージを喚起するものとして機能しうる。エイジアン音楽シーンにおいては、「特定の嗜好・ジャンルに特化した編成フォーマットを採用し、そうしたジャンルの音楽に興味をもつ特定のリスナー層に絞り込むことで差異化をおこなう」[Negus 1996=2004: 128] ラジオ局が重要な役割を果たしており、BBC Asian Network や Sunrise Radio といった全国規模のラジオ局に加えて、南アジア系人口の多い都市のコミュニティラジオ局が、楽曲やアーティストの人気のみならず音楽イベントでのラインアップの決定プロセスにも大きな影響力を持っている。こうしたラジオ局をはじめとする南アジア系メディアにおける音楽チャートのランクイン曲は、どのような音楽実践が「エイジアン音楽」に含まれるのかという、エイジアン音楽〈場〉の文化的正統性（ブルデュー）の問題を考える上で、ひとつの指標として捉えられうるだろう。

しかしながら、こうした音楽チャートは必ずしも実際の楽曲の売上や人気を反映しているわけではない。BBC Asian Network の 'The Official Asian Download Chart'（2010年3月に放送開始）が、公式な売上（ダウンロード）数に基づく初のチャートである一方、その他のエイジアンのメディアにおける音楽チャートのランキングは、それぞれのメディアが独自に決定している。エイジアン音楽では常にバンブラー（北インド・パキスタンのパンジャーブ地方の音楽で、パンジャービー語で歌われる）やボリウッド映画音楽（主にヒンディー語で歌われる）が中心的な位置を占めており、チャートもこれらの音楽がほぼ独占している。また、ラジオ局とアーティストとの関係性がランキングの決定に影響を与えているという業界関係者の声も聞かれる。こうした状況においては、バンブラーやボリウッド音楽がエイジアン音楽を「代表」する実践としてプッシュされ、その一方で異なる音楽実践を行う（例えばグジャラーティー語やベンガル語で歌う）アーティストの市場への参入が困難になる。また、サウンドに南アジア的な要素が一切ない英語詞の楽曲（例えば Jay Sean）が、アーティストのエイジアンとしての属性のみによってチャートにランクインするという事態も生じている。

報告では、チャートのランキングを決定する要素やラジオ局とアーティストが取り結ぶ関係性などに注目しながら、エイジアン音楽〈場〉のネットワークに関わる業界関係者たちによってこの包括的な音楽ジャンルが維持されるメカニズムについて、さらなる考察を加えたい。

参考文献

Negus, Keith, 1996, *Popular Music in Theory: An Introduction*, London: Polity Press. (=2004, 安田昌弘訳『ポピュラー音楽理論入門』水声社)